

基調講演

機能性化粧品の安全性と効能評価

関東 裕美

公益財団法人日本エステティック研究財団 理事長



少子高齢化社会となり価値観、自己表現や美意識の多様化など、社会全体の意識改革が進み、各自の生活の質改善に化粧品を取り入れたいと思う人々が増えているようである。実際女性は社会活動に参加するための化粧が日常生活上必要になることが多い。若年男性の美容意識の高さは皮膚科医として日常診療で大に感じるようになってきた。男女ともにアレルギー患者が増えている背景があり、皮膚のバリア機能維持に必要な化粧指導が必要であるとも感じている。高齢者男性においてもシミや老人性疣の治療希望で受診されるが、治療後の自身のスキンケアについての知識が十分ではない。もちろん治療後に今後シミや疣を再発させないためには抗老化対策が必要なことを説得しているがその必要性を理解しても自身の生活に取り入れるのは難しいようである。化粧品を過剰に使用する若年男性と化粧品の必要性を理解はしても実行できない高齢者男性を診ながら老若男女に機会均等に化粧指導の機会があるのは理美容師やエステティシャンなのかもしれないと感じている。皮膚疾患や内臓疾患を抱えている状況で脆弱皮膚になっているような場合は化粧の指導は容易ではない。日々変化する外的環境変化と自身の内的環境変化のバランスが取れず、皮膚の乾燥や汗、皮脂のケアがうまくいかないのに日常の化粧は継続せざるを得ない場合もある。一般常識として外気や汗、皮脂で汚れてしまうので皮膚洗浄をすることが皮膚の健康につながると考えられている。確かに感染対策上洗顔は不可欠で、季節や年齢、皮膚状況により洗浄剤の使い分けをして健康な皮膚を維持できるような指導が要求される。ストレス社会の中で7割以上の女性が敏感皮膚であると自覚しているといわれるが、男性でも同じように社会生活に参加していく中で自身の皮膚管理が難しいこともある。通常皮膚トラブルを感じると過剰洗浄をしてしまうようで、病原微生物の侵入や外的刺激から守るバリア機能をさらに低下させてしまうことが多い。花粉症や喘息などアトピー体質があると嗜癖行為として皮膚を擦ってしまう習慣があり、過剰洗顔が加わるとバリア機能はさらに損なわれ化粧品に刺激を感じるようになって化粧行為を止めてしまうこともある。外気や紫外線から守るための基礎化粧をしないことでさらに顔面の過敏症状は悪化するという悪循環を繰り返すようになる。顔に何をつけたらよいのか分からないと受診する皮膚炎患者を経験するが、洗顔行為だけは継続している患者が多い。

今年の学術会議では理美容師やエステティシャン達がお客様からのスキンケア相談に応じられる適切な知識を身につけて欲しいと願い～化粧品の最新情報と安全性～をテーマに学術会議を企画した。基調講演では「機能性化粧品の安全性と効能評価」について日常診療で経験した皮膚障害例を交えて講演をさせて頂く。

教育講演では「アンチエイジング化粧品 ～しわ・シミ対策～」をテーマに化粧品学会・抗老化機能評価専門委員会のワーキングメンバーとして活躍、肌分析アルゴリズムの開発研究を担当されている大場 愛先生に抗シワ化粧品と美白化粧品について、その作用メカニズムを踏まえて解説して頂く。

続いて「メンズのための紫外線ケア&基本メイク ～ワンポイント魅力アップ提案～」と題して理美容、エステティック専用商品を取り扱うプロフェッショナル部門に所属しCIDESCO認定エステティシャンとしてエステティック施術開発も行っている山口 知美先生にメンズメイクの必要性についてご講演を頂く。

今回の学術会議講演を聴取することで、化粧品について正しい知識を持ってお客さまへより具体的で適切なアドバイスができるエステティシャンや理美容師として活躍されることを願っている。

略 歴

1980年	東邦大学医学部医学科卒業	2005年	東邦大学医学部皮膚科学第一講座講師
1985年	皮膚科専門医 第3130号	2007年	同講座准教授
1999年	認定産業医 9806973号	2010年	東邦大学医療センター大森病院 スキンヘルスセンター
同年	医学博士取得(東邦大学乙第2126号)	2012年	同講座臨床教授 退官後同講座客員教授
2000年	米国Cincinnati大学皮膚科学教室留学		

資格、役職など

・公益財団法人 日本エステティック研究財団 理事長	・消費者庁 消費者安全調査委員会サービス等 事故調査部会 臨時委員
・公益社団法人 日本毛髪科学協会 副理事長	